

『救われた者の歩み①』

'22/10/02

聖書箇所: エペソ人への手紙 4 章 20-21 節 (新約 p.378)

時々、主の兄弟ヤコブは行ないを強調し、パウロは「信仰による義認(=救い)」、つまり、「(人は)信じるだけで救われる」ということを強調したと言われることがあります。…本当に、パウロは行ないを強調しなかったのでしょうか？

どうぞ、皆さん。聖書をお持ちでしたら、エペソ書 4 章 25 節以降をご覧ください。…そこをご覧くださいと、25 節、『…真実を語りなさい。』、26 節、『…罪を犯してはなりません。…憤ったままではいけません。』、27 節、『…悪魔に機会を与えないようにしなさい。』、28 節、『…もう盗んではいけません。…ほねおって働きなさい。』、29 節、『…悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。…聞く人に恵みを与えなさい。』、30 節、『…聖霊を悲しませてはいけません。』、31 節、『…いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。』、32 節、『…互いに赦し合いなさい。』というように、たくさんの命令が続けざまに記されています。

私自身の理解では、ヤコブの主張も、パウロの主張も、そう大差ないと考えています。…だって、どちらも、同じ真唯一の神様の教えでしょ？ね！皆さん。…このエペソ書を見ても、また、ローマ書を見ても、あるいは、コリント書やガラテヤ書を見ても、救われたクリスチャンたちに対して、パウロが何らかの行ないを命じているみことばはたくさんあります。ただ、パウロは、そういった命令を、ただ単に挙げているだけでなく…、その前に、それらの行ないの原動力となるものについて、多く語ってくれているのです。今日のみことばにしても、実践的な教えとも言えますし…、あるいは、様々な実践のための「原動力」について教えられている、とも言えます。

命題: 救われた後の歩みとは、どのようなものなのでしょう？

先週の礼拝で、私たちは、救われる前に、かつての私たちが歩んでいた人生について学びました。そうして、今日と来週で、私たちは、エペソ 4:20-24 のみことばを通して、先週学んだことの正反対のこと…、つまり、「救われた者たちの歩みと、神様の評価」ということについて学んでいきたいと思えます。そうすることによって、願わくは、皆さんが、ますます、この聖書のみことばが教えてくれている救いについて、正しい理解を持ってくださいますように…。そして、皆さんが自分自身の救いに確信を持ってくださって、神様の前に、もっと価値ある人生を歩んでいってくださることを願います。どうぞ、今回のみことばであるエペソ 4:20 以降をお開きください。

I・キリストと、個人的な関係を持つ者とされた！(20-21 節)

まず、最初に、このみことばは、私たちクリスチャンとは、あのイエス・キリストと“個人的”な関係を持つ者とされた！ということをお教えしてくれています。…良いのでしょうか？皆さん。真の神様によって救われた私たちは皆、イエス様と個人的な関係にあるはずなのです。…それが一体、どういうことなのか、今日は、そういったことについて見ていきましょう。今日のみことばの 20-21 節には、こう記されています。

20 しかし、あなたがたはキリストを、このようには学びませんでした。

21 ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあつて教えられているのならばです。まさしく真理はイエスにあるのですから。

● 救われる 前の人間たち

今回のみことばの最初、20 節の冒頭には、『しかし…』という接続詞で始まっています。前回、私たちが

学んだ内容は、救われる前の、かつての私たちの姿でありました…。ですから、先週学んだ 17 節には、『もはや…』とあつて、かつて、真の神様を信じていなかった頃の無駄な人生に戻ってはならない！と教えるのです。神様によって救われた私たちは、もう既に、その神様によって変えられたのです！…じゃあ一体、どういった点で、私たちは変えられたのでしょうか？

それが、今日のポイントです。…私たちクリスチャンとは、キリストと個人的な関係を持つ者とされた者たちのごとなのです。まず、20 節に、『しかし、あなたがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。』という文章がありますが、実は、ここで、「学ぶ」(μαθητεύω)と訳されているギリシア語の言葉は、「(かつて知らなかったことを)知る、習得する…」というような意味の言葉なのです。

ここ 20 節には、『このようには学びませんでした…』とあるので、私たちは、「このように」という内容を正しく知るために、先週学んだ内容を復習することが必要です。先週、私たちは、このみことばと対比されている 17-19 節の部分を通して、救われる前の、かつての私たちが、神様の前にどのように評価されていたのか？ということについて学びました。先週に学んだ、私たちの創造主であられる神様の目から見た時の、かつての私たちの歩みは？と言いますと…、

①意味の無い…、無駄な歩みをしているようなものであったと、みことばは教えてくれています…。どれ程、私たちがこの地上で多くの財産や地位を得ようと、それが神様の前に、一体何になるのでしょうか…。私たちにあって、一番大事なことは魂であり…、永遠をどこで過ごすのかということであると、私たちは学びました。みことばは、私たち人間に、「むなしい心で歩んではなりません！」と教えてくれているのです…。

②また、かつての私たちの心は…、私たちが愛してくださっていた神様の前にも、「頑な」になってしまっていました…。それゆえ、神様の与えようとしてくださっている救いからは、勿論のこと…、本当の喜びや様々な祝福からも、かつての私たちは遠く離れてしまっていたのです。

③最後に、私たちが生まれながらに持っている良心…、つまり、何が正しくて、何が間違っているのか…、そういったことをある程度教えてくれる、善悪を判断する心…、それさえも、私たちは自分たちの罪のゆえに無感覚になってしまっていました…。そんな私たちの向かっていた先は、永遠の滅び…、終わることのない苦しみの場所でした…。かつて、救われる前の私たちは皆、誰一人例外無く、その裁きの場所である地獄に向かっていたのです。

しかし、今日のみことばは教えます、『しかし、あなたがたはキリストを、このようには学びませんでした。』…、つまり、もしも、私たちが今、イエス・キリストを信じて変えられているのなら、このような虚しく、ムダな歩みから遠ざかっておられるはずだ、と今日のみことばは教えるのです…。

● 本当に 救われた者たちの特徴

だから、その後の 21 節のみことばは、こう教えるわけです。『ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあつて教えられているのならばです。…』⇒つまり、あなた方が本当に救われているかどうかですよ！それに懸かっているのですよ！ということ、このみことばは教えてくれているわけです。…ここでは、2つの動詞が使われています。それらは、①聞く、②教えられる、という動詞ですけれども、それらをそれぞれ抜き出してみると、こうなります。①本当に、あなたがたがキリストに聞き…、②キリストにあつて教えられているのならば…という感じです。

この部分だけを見ますと、まるで、さも、彼らがイエス様に会って…、そのイエス様から直接聞いて、イエス様から直接何かを教えられたような…、そんな印象を受けませんか？…でも、ここで言われている、『あなたがた…』とは、この当時、エペソやその近くの小アジアに住んでいた人たちですから、ほとんどの人は、実際にはイエス様に会っていないはずなのです。…じゃあ、これはどういうことなのでしょう？

例えば、1ペテロ 1:8 では、迫害の中にあつたクリスチャンたちに対して、こんなみことばが記されてあります。『あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。』って…。この1ペテロ書が書かれたのは、イエス様の十字架と復活から、おおよそ30年後(紀元63年頃)…。私たちが学んでいるエペソ書も、大体、それとほぼ同時期(紀元61年頃)に書き記されたと考えられています。…つまり、これらの手紙の読者たちのほとんどは、イエス様の姿かたちを見たことが無い者たちの方が圧倒的に多かったはずなのです。

しかし、そんなことは全能者なる神様の前には、大きな問題ではありません！救われた私たちは皆、イエス様と個人的な関係で繋がっているはずなのです。…だから、私たちクリスチャンは皆、救い主であられるイエス様のことを個人的に愛しており…、そのイエス様の喜ばれるように生きていきたいと考えるのです！

例えば、1コリント 2:16 のみことばは、このように教えてくれています。『いったい、「だれが主のみことばを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちに、キリストの心があるのです。』⇒一体、人は、どのようにして、真の神様の思いやみことばを知ることができるのか、ということです。それに対して、聖書のみことばはこう教えます、「私たちクリスチャンには、『キリストの心』が与えられている」って…。そのすぐ直前15節のみことばをご覧くださいと、そこには、明らかに、『御霊』…、つまり、聖霊なる神様が私たちクリスチャンの内に住んでくださっている、ということが教えられてあります。

話を元に戻しますと…、聖書のみことばは、当時のエペソ周辺のクリスチャンたちは、①イエス・キリストから生き方を学び…、②そのキリストから聞き…、③キリストから教えられたのである！と教えるのです。そのような…、イエス・キリストとの個人的な交わりを持っているかどうか、先週に学んだ…、17-19節のみことばが教えるような、まるで救われる前の虚しい歩みの中にあるか…、あるいは、そのような歩みから抜け出て…、新しい歩みをしているかどうかの違いである、ということです。…つまり、救いのこと！ある人が救われているかどうか、それを見極めるための…、1つの基準は、このような、キリストとの個人的な関係を持っているかどうか…、キリストと個人的に繋がっているかどうか、ということなのです。

皆さんだって、そうじゃありませんか？…ここに居る私や皆さんだって、誰一人、直接、イエス様と会った者などおりませんし、また、直に、イエス様の肉声を聞いたわけでもありません…。そうではなくて、先輩のクリスチャンたちから…、また、聖書のみことばからイエス様のことについて学んだわけですが、でも…、それらは皆、真の神様からのものであり、天の神様が私たちに教えてくださったということを信じていらっしやるでしょ？

特に、そういったようなことは、エペソ 1:13-14 や、2:18、3:5 など、聖霊なる神様の働きとして教えられてありました…。そうして、それがエペソ書 4章では、実は、すべてイエス様のご配慮によるものであり、イエス様のお働きであるということを、私たちは既に学んだのです！

● 真の到達点 であられるイエス・キリスト

…なので、今日特に皆さんに注目してもらいたいことは、今日のみことばが使っている動詞の時制です。現在形とか、未来形などというやつです。今日のみことばで使われてある20-21節の、「①学ぶ、②聞く、③教えられる」、これらの動詞の時制には、すべて、「アオリスト」という時制が用いられてあります。

アオリスト…、「また、難しいことを…」と思われかも知れませんが、そう難しいことではありません。…このアオリストという時制は、日本語には無い時制ですから、馴染みにくいのですが、簡単に言うと、こういうことです。…これは、いつかは分かりませんが、過去のある時点で、それが起こり、もうそのことが片付いてしまった、という時に使う時制なのです。そのことが、ずっと継続している時に使うものではありません。だから、アオリストの時制のことを、別名で、「不定過去」とも言うのです。

このみことばは、あなたがたクリスチャンはもう既に、キリストのことを知ったし、学び終えたと言うのです。…こんな風に言うと、ある方はこう思うかも知れませんが、「私は、イエス様のことを信じていますが、今も継続的に学び続けています。イエス様のことをもっと知りたいと思っています。もう既に学び終わったなどとは思っていません」と…。確かに、おっしゃる通りです。実は、ここで言われていることは、イエス様がどんなことをなされたのか…、または、イエス様の教えのすべてを指すものではありません。イエス様が、どういったお方なのか、ということなのです。

だから、どうぞ、今日のみことばの21節に注目してみてください。そこには、何とあります？『…まさしく真理はイエスにあるのですから。』⇒つまり、「イエス様こそ真理であられる！」ということです。イエス様のおっしゃられたことはすべて真理であり…、イエス様こそは真実なお方であるということ信じ…、理解する…、そのことを受け入れる！ということなのです。

ある時、イエス様は、ご自分のことについて、こうおっしゃられました。ヨハネ 14:6、『…わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』⇒ここで言われている、①『道』、②『真理』、③『いのち』、という言葉には皆、それぞれ、ギリシャ語の冠詞が付いています。英語で言うところの、「the」という単語のことです。これは、イエス様だけが、唯一の正しい道であり…、また、唯一の真理であられ…、そして、イエス様だけがいのちの源である、ということをおっしゃっています。…クリスチャンとは、イエス様こそが真理であられ、イエス様を通してでなければ、決して、神様のもとである、天に行くことができないということ信じた者なのです。

こういったことに関して、私たちクリスチャンは、もうそれ以上に学ぶ必要はありません。先程、言いましたように、アオリストの時制が表わしてくれているように、もう、私たちは十分にイエス様のことを知っているからです！イエス様こそは、真の神様であられ…、イエス様だけが唯一の救い主、イエス様だけが真実であられるって…。もし私たちが真理を知りたければ、イエス様ところへ行けば良い！イエス様が語ってくださったみことばに耳を傾けたら良い！真理を追究するために、イエス様以外のところへ行く必要がない！ということなのです。

ですから、どうぞ、皆さん、1ヨハネ 2:27 をご覧くださいませ？…そこには、こんなことが記されてあります。『あなたがたの場合は、キリストから受けたそそぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教える必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、—その教えは真理であって偽りではありません—また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。』

⇒時々、この聖書箇所が間違っ引用されて、キリスト教会には、教職(=牧師や教師)が必要ない、と言われることがあります。でも、本当にそうでしょうか？⇒もし、そうなら、どうして、世界中に数多く存在する教会のほとんどには、牧師や教師たちがいるのでしょうか？また、聖書には、どうして、牧師や教師たちに関する教えがたくさんあるのでしょうか？また、つい最近、私たちは、エペソ 4:11 から学んだように、どうして、イエス様がわざわざ、牧師や教師たちを任命されたのでしょうか？

⇒その答えとして、エペソ 4:14 に、『それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることが…』無いためである、とみことばは教えてくれています。このように、牧師や教師たちが居ないと…、より多くの者たちが惑わされる、だから、教会には牧師たちが必要なのである、とみことばは明らかに教えてくれています…。改めて、言うまでもないことですが、聖書は矛盾しません…。私たちの解釈…、聖書理解が問題なのです。

先程引用した Iヨハネ 2:27 の直前では、本当の信仰について教えられてあります。また、特に、にせ教師や反キリストのことについても教えられてあります…。だから、先程引用したみことばの少し前、Iヨハネ 2:18-19 には、こうあります。『18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今が終わりの時であることがわかります。19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であつたのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。』⇒ここで言われているように…、かつて、同じように信仰を持っていると思われた者たちが、反キリストとなって、聖書と違ったことを教えるようになってきたようです…。しかし、そんな中で、使徒ヨハネが教えるのは、「あなたがたは真理にあるから大丈夫だ！」ということです。…真理とは何でしょう？ イエス様です！

だから、ついさっき見た Iヨハネ 2:27 には、『あなたがたの場合は、キリストから受けたそそぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教える必要がありません。…』とあるのです。つまり、「真理である、イエス様にだけしっかりと留まっていなさい！ そうすれば大丈夫だ！ あなた方は、キリストの油（＝聖霊）を受けているのだから…。真理を追究するために、イエス様以外のところに行く必要など無い！ キリスト以外の教える必要など無い！」ということなのです。

だから、この Iヨハネ 2:27 の最後でも、『…また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。』とあるし、続く 28 節でも、『そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。…』と、繰り返し命じられてあるのです。

イエス・キリストこそが、真理である…、そして、イエス様を通してでなければ、救いは無いということを、受け入れた者がクリスチャンです。私たちクリスチャンは、それを信じたことによって救われたのです…。皆さん、これが救いなのです！ 本当の意味で、「キリストを知る」ということ…、それは、言い換えれば、個人的にイエス様を知る…、イエス様と個人的な関係を持つ、ということなのです。

じゃあ、皆さんはイエス様と個人的な関係を持っておられますか？…例えば、皆さんの救いに関する理解は、ある方から教わった、そのままのものでしょうか？…何となく受け入れたような…、何となく信じたような…、信じているような信じていないような…、そのような、あやふやなものでしょうか？あるいは、皆さんは、個人的にイエス様を信じ、イエス様に従っていく決心をされましたでしょうか？

マタイ 7 章で、イエス様は、救いに関して、このように教えてくださっています…。マタイ 7:13-14、『13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。』⇒このみことばを学んだ際にもお話ししましたが、救いには、皆さんの選択…、あなたの決心が絶対に伴います。神様が、そのように導いてくださるのです！

ただ何となくでも、教会に通い続けていればいつかは救われる…。申し訳ありませんが、そんなことを、聖書のみことばは教えていません。もし、皆さんが、誰かに誘われて教会に来られたなら…、それはそれで構いません…。私もそうですから…。

でも、もし、あなたが救われているなら…、あなたはある時に、自分の意志で、イエス様こそが真理である…、イエス様を信じよう！ と決めたはずですよ。「友達が誘うから…、うちの主人が言うから…、親がうるさいから…」、そんな人任せの理由ではなく…、あなた自身が、自分自身で考えて…、自分自身の責任に基づいて、イエス様を信じよう！ このイエス様に従っていこう！ と決心されたはずですよ。

だから、例えば、Iコリント 15:1-5 のみことばは、こう教えるのです。『1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それ

によって立っている福音です。2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によりがえられたこと、5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。』

⇒ここ 1-2 節で、『あなたがたが受け入れ…』とか、『もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら…』という言葉・表現があつたように、信仰とは、あくまでも、個人的なものです！ ですから、例え…、夫婦や親子であつたとしても…、誰かが誰かのために、代わって…、信仰を持ってあげる、ということはいけません。その人が救われるためには…、その人自身が自分で考え、自分でイエス様を個人的に受け入れて、信じる決心をすることが、どうしても必要なのです！

<励ましの言葉>

良いでしょうか、皆さん。確かに、聖書の知識は必要なものです。ローマ 10:17 に、『…信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。』とある通り、イエス・キリストに関する知識、ある程度の理解無しに人は救われ得ません。しかし、だからと言って…、聖書を学べば救われるかと言うと、聖書はそうも教えませんでしょ？ 単なる知識は、人を救わないのです。

人を救うのは信仰だけです。幾ら、皆さんが熱心に教会に来てくださったところで、もし、皆さんが個人的にイエス様を受け入れて、個人的にイエス様を信じておられないのなら、そこに救いはありません。もし、皆さんが、幾ら素晴らしい捧げ物をしてくださったところで、そこに信仰が無いのなら、それは神様に受け入れられるものではありません。

今日、このメッセージを聞いてくださっている皆さんは、ほぼ間違いなく、知識の上ではイエス様を知っておられます。イエス様が、どのように生まれられ…、そのような歩みをされたのか…。また、イエス様が、どのように十字架に向かっていかれたのか、皆さんはよくご存知でしょう。また、イエス様の十字架は、私たち人間の罪のためであり、それを赦すためであつたということも、ご存知だと思います。イエス様が死んで、その後、約束通り、その死からよみがえられたということも、知識の上ではご存知です。

しかし、最も大事なことは、そのような表面的な知識ではありません。そういったことを、あなたが個人的に信じ、受け入れておられるかどうかです。ある方はおっしゃいます、「自分では、それが単なる知識なのか、それとも、本物の信仰なのか、よく分からない。」って…。なるほど、そういったことも有り得ると思います。

しかし、どうか、もう一度、今日のみことばをご覧ください。エペソ 4:20-21、『20 しかし、あなたがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。21 ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあつて教えられているのならばです。まさしく真理はイエスにあるのですから。』⇒このみことばが、はっきりと教えてくれているように、もし、あなたが個人的にイエス様を知り…、イエス様を信じる決心をされたのなら…、あなたの歩みは、私たちが先週学んだようなものではないはずです。

ですから、どうぞ皆さん、考えてみてください…。①皆さんの今の歩みは、神様から離れた無意味な…、無益なものに執着してしまつてはいませんか？②あるいは、真の神様の前に、心を頑なにしてしまつていませんか？③それとも…せっかく神様が与えてくださった、善と悪を判断する良心というものを無視して、生きてしまつていないでしょうか？

天の神様は、皆さんが自分の欲望に走り、皆さんが好き勝手な歩みをするために、救ってくださったのではありません。何度も言いますように、最近では、多くのキリスト教会が、「君は愛されるために生まれた」という賛美を歌う傾向にあります。よく、キリスト教番組などの伝道メッセージで引用されるのですが、

残念ながら、それは聖書からの教えではありません…。私たち人間は、神様から愛されるために生まれた…、造られたのでは決してなく、むしろ、神様を愛するために…、神様の偉大なる栄光を現わすために生まれ、救われたのです！

「君は愛されるために生まれた」などと言うと、それは非常に、私たちの耳には心地良いです。何故なら、「自分は特別な存在であって、このままで良いんだ！ 何もしなくて良いんだ！ ただ、神様を受け入れるだけで良いんだ！」となってしまうからです。

しかし、聖書のみことばはこう教えます。「あなたは、造り主なる神の栄光を現わすために造られたのだ！ だから、その目的に沿って生きようとしなさい、あなたは神様の前には罪人であり、それ故に救いが必要なのだ！ あなたは、自分の罪を認め、それを悔い改め、神によって変えられなければならない！」って…。救われるためにはなく…、救われたからこそ、神様の栄光を現わしていきなさい。神様によって特別に召し出されたのだから、その召しにふさわしく歩みなさいと、聖書のみことばは教えます。

どうぞ、この神様を…、真唯一の神であられ、真の救い主であられるイエス様を個人的に受け入れ…、神様の前に、本当に価値ある人生を送っていただきたいと、心からお勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。